

除草剤(非選択性茎葉処理剤) 登録番号 第16397号

プリグロックスL

(ジクワット・パラコート液剤)



- 有効成分 ジクワットジプロミド 7.0% パラコートジクロリド 5.0%
- 性 状 暗青緑色水溶性液体
- 毒 性 毒 物
- 有効年限 4 年
- 包 装 1ℓ×12本/ケース
- 化 管 法 ジクワットジプロミド(1種) 7.0% パラコートジクロリド(1種) 5.0%

[特 長]

1. イネ科、広葉を問わずあらゆる一年生雑草を速やかに枯らします。
2. 気温による影響をほとんど受けず、一年中いつでも安定した効果を示します。
3. 土に吸着されるとすぐに不活性化するので、散布後すぐに播種、植付けができます。
4. 根からの吸収による薬害の心配はありません。
5. 散布後速やかに雑草に吸収されるので、散布1時間後以降の降雨による影響は受けません。
6. スギナに対して優れた効果を示します。

[適用雑草と使用方法]

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (10a当り)		本 剤 の 使用回数	使用 方法	ジクワットを 含む農薬の 総使用回数	パラコートを 含む農薬の 総使用回数
				薬量 (mℓ)	希釈水 量 (ℓ)				
移 植 水 稻	-	一年生雑草	秋期稲刈取後 又は春期水田 耕起1ヶ月前か ら直前まで	800~1000	100~ 150	1回	雑草茎葉 散布	1回	1回以内
直 播 水 稻			秋期稲刈取後 又は春期水田 耕起1ヶ月前か ら直前まで又は 雑草生育期、 は種前14日~ は種後7日 (イネ出芽前)	600~1000					
麦 類			は種前又は は種後出芽前	4回以内		4回以内		4回以内	
はとむぎ			畦間処理:雑草生育期 (出穂前まで) 但し、収穫60日前まで						2回以内

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (10a当り)		本剤の使用回数	使用方法	ジクワットを含む農薬の総使用回数	パラコートを含む農薬の総使用回数		
				薬量 (mℓ)	希釈水量 (ℓ)						
ばれいしょ	-	一年生雑草	萌芽直前	400～600	100～150	2回以内	雑草茎葉散布	2回以内 (茎葉枯凋は1回以内)	2回以内		
			畦間処理：雑草生育期 但し、収穫前日まで	200～300 (北海道)						400～600	
いも類 (ばれいしょ、 かんしょ、 やまのいも、 さといも、 こんにゃく、 みずいもを 除く)		一年生雑草	植付前	畦間処理： 雑草生育期 但し、収穫30日前まで		600～1000		3回以内	3回以内	3回以内	
											かんしょ やまのいも
											さといも
											こんにゃく
											果樹類 (かんきつを除く)
かんきつ		多年生雑草	雑草生育期 但し、 収穫前日まで	800～1000		5回以内		5回以内	5回以内		
		スギナ		1500～2000							
		一年生雑草		1000～2000							
		多年生雑草		800～1000							
		スギナ		1500～2000							
	ツユクサ		1000～2000								

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (10a当り)		本剤の使用回数	使用方法	ジクワットを含む農薬の総使用回数	パラコートを含む農薬の総使用回数	
				薬量 (mℓ)	希釈水量 (ℓ)					
野菜類(レタス、キャベツ、はくさい、カリフラワー、ブロッコリー、ねぎ、だいこん、にんじん、ごぼう、たまねぎ、トマト、きゅうり、すいか、メロン、なす、ほうれんそう、ピーマン、かぼちゃ、アスパラガス、パセリ、ふき、みょうが(花穂)、みょうが(茎葉)、うど、やまのいも(むかご)、しょうが、にんにく、たけのこ、いちごを除く)	-	一年生雑草	は種前又は植付前	600～1000	100～150	3回以内	雑草茎葉散布	3回以内	3回以内	
キャベツ カリフラワー だいこん ごぼう			畦間処理： 雑草生育期 但し、収穫30日前まで は種前又は植付前							
トマト きゅうり ほうれんそう ピーマン かぼちゃ			畦間処理： 雑草生育期 但し、 収穫14日前まで は種前又は植付前							
いちご			定植前又は畦間処理： 雑草生育期 但し、収穫前日まで は種前又は植付前							
アスパラガス			畦間処理：雑草生育期 但し、収穫前日まで 萌芽前：雑草生育期 (草丈20cm以下)							
			スギナ	畦間処理：雑草生育期 但し、収穫前日まで は種前又は植付前						1000～2000
はくさい ブロッコリー レタス たまねぎ ねんじん なす すいか メロン しょうが にんにく			一年生雑草	畦間処理： 雑草生育期 但し、 収穫3日前まで は種前又は植付前						600～1000
茶				摘採7日前まで						800～1000

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (10a当り)		本剤の使用回数	使用方法	ジクワットを含む農薬の総使用回数	パラコートを含む農薬の総使用回数
				薬量 (mℓ)	希釈水量 (ℓ)				
ふ き	-	一年生雑草	萌芽前	600~1000	100~150	2回以内	雑草茎葉散布	2回以内	2回以内
みょうが (花穂)			畦間処理：雑草生育期 但し、収穫2日前まで						
			萌芽前						
みょうが (茎葉)		畦間処理：雑草生育期 但し、みょうが(花穂) の収穫30日前まで、花穂 を収穫しない場合にあって は開花期終了まで							
		萌芽前							
たけのこ		一年生及び 多年生雑草	萌芽前： 雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、収穫7日前まで	1000~2000		3回以内		3回以内	3回以内
う ど		一年生雑草	畦間処理：雑草生育期 (根株養成期) 但し、収穫7日前まで	600~1000		2回以内		2回以内	2回以内
やまのいも (むかご) パセリ			は種前又は植付前			3回以内		3回以内	3回以内
			畦間処理： 雑草生育期 但し、収穫7日前まで			2回以内		2回以内	2回以内
豆 類 (種実、但し、 だ い ず、 らっかせい を除く)			は種前又は植付前						
			だ い ず			畦間処理： 雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、収穫3日前まで		4回以内	4回以内
は種後出芽前雑草生 育期(草丈20cm以下)									
えだまめ	畦間処理： 雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、収穫14日前まで	2回以内	2回以内	2回以内					
さとうきび	圃場内の 周縁部	多年生雑草	雑草生育期 但し、収穫3日前まで	1000~2000	3回以内	3回以内	3回以内		
	-	一年生雑草	畦間処理： 雑草生育期 但し、収穫3日前まで	600~1000					
未成熟 とうもろこし	-	一年生雑草	畦間処理： 雑草生育期 但し、収穫3日前まで (草丈30cm以下)	600~1000	5回以内	5回以内	5回以内		

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量 (10a当り)		本剤の使用回数	使用方法	ジクワットを含む農薬の総使用回数	ハラコートを含む農薬の総使用回数		
				薬量 (mℓ)	希釈水量 (ℓ)						
とうもろこし (子実)	-	一年生雑草	畦間処理： 雑草生育期 但し、収穫6日前まで (草丈30cm以下)	600～1000	100～150	5回以内	雑草茎葉散布	5回以内	5回以内		
桑			春期萌芽前 又は伐採後			3回以内		3回以内	3回以内		
たばこ			大土寄期 畦間処理： 雑草生育期	800～1000		1回		1回	1回		
花き類・観葉植物 (チューリップ、すいせんを除く)			畦間処理： 雑草生育期 (草丈20cm以下)	600～1000		3回以内		3回以内	3回以内	3回以内 (ウイルス罹病株の枯殺は1回以内)	3回以内 (ウイルス罹病株の枯殺は1回以内)
すいせん			萌芽前 (雑草生育期)								
チューリップ			植付後萌芽前 (雑草生育期)								
樹木類			畦間処理： 雑草生育期 (草丈20cm以下)								
			雑草生育期 (草丈30cm以下)								
水田作物、畑作物 (休耕田)			休耕田	雑草生育期		800～1000		4回以内	4回以内	4回以内	
水田作物 (水田畦畔)			水田畦畔			600～1000 1000～2000		5回以内	5回以内	5回以内	
樹木等	公園庭園 堤とう 駐車場 道路 宅地のり面等	一年生雑草	800～1000	3回以内	3回以内	3回以内	3回以内				
		多年生雑草	1500～2000								
	スギナ	スギナ生育期	1000～2000								

作物名	適用場所	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ジクワットを含む農薬の総使用回数	ハラコートを含む農薬の総使用回数
チューリップ	ウイルス罹病株の枯殺	1mℓ /株	第2葉展開期から 開花20日後まで	1回/罹病株	ウイルス罹病株葉への滴下	3回以内(ウイルス罹病株の枯殺は1回以内)	3回以内(ウイルス罹病株の枯殺は1回以内)

【使用上の注意】



1. 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
2. 展着剤を加用する場合には、非イオン系展着剤を使用してください。
散布液量は雑草の大きさや密度に応じて、適宜増減してください。
3. 散布に当たっては、なるべく低圧で、風向きなどに注意し、薬液が果樹、桑、茶、野菜などの作物や周囲の植木類、芝など有用植物に飛散してかからないよう十分注意してください。
特に野菜類の生育期畦間散布や水田畦畔で使用する場合は、専用の噴口や散布器具を用いて作物にかからないように散布してください。
4. 無人航空機での散布は行わないでください。
5. チューリップに使用する場合には、専用の器具を用いて滴下してください。又、使用薬量を10a 当り2000mlを超えないように適用の範囲内で単回使用量を調整してください。
6. 直播水稲に使用する場合には、乾田状態で雑草に茎葉散布してください。
7. は種又は植付前使用の場合は、それらの約1週間前から前日までに使用してください。
8. 桑に使用する場合には、給桑葉にはかからないように注意してください。
なお伐採後に使用する場合には腋芽期までに散布してください。
9. 散布液を調製した容器及び散布器具は使用后、石けん水で十分洗ってください。
10. 散布薬液の飛散によって自動車やカートを塗装等へ影響を与えないよう、散布地域の選定に注意し、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
11. 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意してください。
 - ①水源池等に本剤が飛散、流入しないように十分注意してください。
 - ②散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さないでください。空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。
12. 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
13. 医薬用外毒物。取扱いには特に注意してください。
誤って飲み込んだ場合には、応急処置を誤ると生命にかかわるので、一刻も早く吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受けさせてください。
使用中に身体に異常を感じた場合には、安静にして直ちに医師の手当を受けてください。
14. 眼に対して極めて強い刺激性があるので使用の際には必ず保護眼鏡を着用し、眼に入らないよう注意してください。
万一、眼に入った場合にはできるだけ早く十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
15. 皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
16. 散布液調製時及び使用の際は、保護眼鏡、防護マスク、不浸透性手袋、ゴム長靴、不浸透性防除衣などを着用してください。
作業後は身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
17. 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
18. かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。

19. チューリップに使用する場合は専用器具以外は絶対に使用しないでください。
また、専用器具に薬液を入れたまま保管しないでください。
 20. 散布に際しては噴口にカバー等をつけるか泡散布にしてください。
ミスト機での散布は絶対に行わないでください。
 21. 作業は朝夕の涼しい時間を選び、2時間程度で交代するなどして同一人が長時間継続して作業を行わないでください。
また、過労時には散布を行わないでください。
 22. 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
 23. 危害防止上、薬剤を分割して他に与えないでください。
また、使用の場合も本剤及び薬液を防除機、攪拌容器など防除専用器具以外の容器には移しかえないでください。
 24. 使用後の空容器は圃場などに放置せず、必ず危険のない場所で処理してください。
 25. 使用残りの薬剤は鍵のかかる安全な場所に保管してください。
 26. 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。
 27. 水産動植物（藻類）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
 28. 散布後は水管理に注意してください。
- ※ たばこに使用する場合は、日本たばこ産業株式会社の指導を受けてください。

〔貯蔵上の注意〕

1. 誤飲することのないように飲食物、食器類と区別し、直射日光をさけ、子供の手の届かないなるべく低温な場所に、密栓し鍵をかけて厳重に保管してください。盗難・紛失の際は、警察に届けてください。
2. 誤飲の危険をさけるため、保管の際は他の容器には絶対に移しかえないでください。